

〔入道左府記〕嘉元二年七月十七日、今夜後深草院御葬送也。○中御骨被納安樂行院佛壇下、

〔玉葉和歌集十七〕遊義門院○後宇多后子内親王かくれさせ給て後後深草院の御忌日に、法華堂へ御幸ありてよませ給ける、

院○伏御製

こぞまではわけこし友もつゆときえてひとりしをるゝふかくさの野べ

〔増鏡十一今日の日蔭〕としかへりぬれば、嘉元も三とせになりぬ、萬里小路殿の法皇山○龜又御なやみ

とて龜山殿へうつらせ給ふ、○中九月十五日の明ばのにつひにかくれさせ給ひぬ、○中おなじ

十七日に、御わざの事せさせ給ふ、○中御骨もこの院に法華堂をたてさせ給へば、龜山院とぞ申

べかめる、

〔文應皇帝外記〕嘉元三年秋、上皇山○龜病、龜山宮召圓○僧館壽量院時々侍看養、○中圓馳使告予○僧

予便陪壽量、九月望、上皇崩、予陪之四日也、關毘後藏仙骨於三所、淨金剛院、南禪寺、金剛峰寺、且願命也、黃門侍郎藤賴藤主喪事、於淨金剛院分仙骨納五青瓷、三瓷留淨金剛院、南禪金剛峰各一圓

令予承仙瓷、予擊歸龍山○南共圓闕寶塔、

〔皇代記後宇多〕元亨四年六月廿五日、寅刻崩大覺寺、同廿八日、葬蓮華峯寺傍山、

〔伏見上皇御中陰記〕文保元年九月三日、寅刻法皇○伏有御事、四日、今日御葬禮事、山作所深草丑

刻奉入深草殿、五日、今曉前大納言經親卿舊院執權也、於深草出家、即直參御茶毘所午刻事了之間、以御骨

奉懸頸、奉納後深草院法華堂、

〔皇年代略記後伏見〕延元元年四月六日、崩於持明院殿、九十號後伏見院、依遺同八日、葬於嵯峨野、安

仙骨於後深草院法華堂、

〔風雅和歌集十七〕後伏見院かくれ給ひてのち、仙骨を従三位守子の墓所にならべて置奉るべき

よし、御遺誠にまかせて納奉るとて、